地域おこし協力隊活動レポート

協力隊が行く！

今月の担当は 中﨑隊員です！

こんにちは、地域おこし協力隊の中﨑千晶です。

今年もあと１カ月を切りました。師走ということで忙しい毎日になりそうですが、地道に畑と向き合いつつ、大掃除をしたいと思います。

新しい挑戦

この(左上の写真の)植物をご存知でしょうか？おそらく枕崎のお墓の風景でよく見かけるものですね。これはハイビスカスローゼルといいます。ハーブとしてクレオパトラも美容のために飲んでいたという話もあるようです。アオイ科フヨウ属で、日に日に昼の時間が短くなる(夜の時間が長くなる)頃に花をつける短日植物だそうです。10月になると、目に見えて日が落ちるのが早く感じた頃に実をつけ始めました。この実のガクを摘み取り、ドライにしてハーブティー、ジャム、塩漬けにします。クエン酸のおかげで酸味があります。畑で栽培していると皆さん不思議そうに質問されます。私が「お茶にできますよ！」とお伝えすると度々驚かれます。枕崎の気候にマッチしているようで、ほかの地域での栽培よりも長く育てることができました。私は、この作物がもっと注目を浴び、枕崎の作物の仲間入りができるようにしたいと思い、来年も引き続き栽培しようと決心したところでした。

移住者という立場で

枕崎にもともと住んでいない方がどのくらいいらっしゃるかは分かりませんが、他県から仕事で来た方、結婚を機に定住した方がいらっしゃいます。私も結婚というご縁もあり定住の道を進んできました。コロナ禍以前の決断だったので、６時間もあれば自分の実家に帰れると思って割と気軽に移住しました。しかしながら、コロナ禍になり帰省することが難しくなりました。枕崎市では、枕崎出身の学生や社会人の方にエール便を送っていると伺いました。私も馴染みの関東の食料品を県内で見つけると購入しています。今、私が育てているハーブにアジア系のハーブが多くあります。パクチーやレモングラス、これらはアジア料理には欠かせません。枕崎市には多くの技能実習生の方が住んでいます。彼らもなかなか国へ帰ることができないと思います。食事だけでも母国を感じていただけたらと考えて、いろいろな国の方がどのような作物を好んで食べているのかを調査しています。外国人の方でなくても、皆さん故郷の食材があると思います。それぞれの方が自分の故郷の味を思い出せるといいな、という思いからちょっと始めている活動です。もし機会がありましたら、私に教えてください。

市長コラム vol. 33

仕事の原点

こんにちは、前田祝成です。

これまで市長コラムを2年8カ月、32回書いてきました。それらを振り返ってみると、仕事についてのコラムが多いことに気付きます。いろいろな考え方があると思いますが、「人は仕事をとおして自分の存在感を確認する」ということが言えるのではないかと思います。そして、いい仕事とは「人を助けている」と感じます。これは前にも書きましたが、世の中の多くの人に尊敬されるような経営者は、人の役に立つことを超えて人を助ける存在にまでなっている。そこまでたどり着けばすごいことですが、私たちの日々の仕事でも、小さくとも人を助けることができたときの仕事の満足感というものは、あるのではないでしょうか。

プロの仕事の先には、必ずお客様の存在があります。プロとアマの絶対的な違いはそこにあります。つまり、仕事の先にあるお客様にいかに役に立つ仕事ができるか、いかに助けられるかが、その仕事の出来、善しあしにつながっていきます。私はメーカーでの仕事経験がありますが、メーカーでは製造した製品を商品としてお客様の元に届けて、お客様がその価値分の対価を支払い、その商品を消費する。そのとき、その対価分あるいは対価以上の満足をお客様が得ることができれば、次もまたその商品を手に取っていただける。その満足感がお客様の役に立ち、さらには助けることにもつながる。メーカーの場合は、製品がお客様へ届く時が最終のアウトプットになりますが、社内には経理の仕事、総務の仕事、人事の仕事など、直接製品に関わらない仕事もあります。しかし、それらの仕事の先にもお客様の存在があり、その間接的な仕事のパフォーマンスもお客様の満足につながっていきます。農業などモノを作る仕事はもちろん、金融業や行政の窓口業務、販売の仕事、全ての仕事の先にお客様が存在し、そのお客様の役に立つことで仕事(商売)が成り立っていく。

感染症が蔓延し、これまでのように仕事をこなしていくことが難しい状況もありますが、もう一度、仕事の原点に戻って、新しい一歩をスタートさせたいものです。

枕崎（まく）×人（ひと）×仕事（しごと）　No.21

福元　幸介（こうすけ）さん　(48)

有限会社 福元産業運輸 / 国見町

「枕崎 × 人 × 仕事」では、枕崎にあるさまざまな仕事と、その仕事に携わる人を紹介します。

今月は、私たちの生活には欠かせない物流を担う有限会社福元産業運輸を取材しました。

新型コロナウイルス感染症の第5波が収まりつつあり、経済が動き始めている今、経済活動の再開に大きな役割を担っているのが物流です。今回は枕崎で運送業を営む有限会社福元産業運輸の福元幸介さんを取材しました。

枕崎の別府出身の福元さんは、別府小・中学校、市外の高校を卒業後、地元での就職を希望して、18歳で枕崎に戻り当時の枕崎市農協に就職しました。その後、父親が運送業を始めたため、一緒に手伝おうと22歳の時に大型トラックの免許を取得し、トラック運転手に転職しました。現在は、有限会社福元産業運輸の常務取締役として、会社を経営しながら14名のドライバーと一緒に鹿児島県内の野菜や生鶏、木材、飲料などの幅広い分野の荷物を関東や関西、九州管内を中心に配送しています。

「物流は生活の中になくてはならないライフライン。自分たちの仕事にはやりがいがある」と話す福元さん。かつては鹿児島県のトラック協会の青年部の会長も務め、トラックの仕事に関する出前講座や交通遺児等への寄附活動、東日本大震災の被災地でのボランティア活動などの社会貢献活動を積極的に行ってきました。現在も九州地区のトラック協会の役員を務め、九州の仲間たちとさまざまな社会貢献活動を行っています。「台風などの災害が発生すると飛行機、船は動けないがトラックは動くことができる」と話す福元さんは、実際に災害が発生した際も自らトラックを走らせ、物資を配送したこともありました。

現在では会社の経営が主な仕事になるため、トラックを運転することはあまりありませんが、これまで北海道と沖縄を除く都府県を訪れたという福元さんは、それぞれの地域のご当地料理が食べられるのもこの仕事の一つの魅力と話します。

「物流は大事なライフライン。これからも安全運転に努め、皆さんに夢と希望を届けたい」と今後の目標を話しました。

スポーツ・文化イベント情報

南溟館

開 9:00 ～ 17:00
※入館は16:30まで

休 毎週月曜日
※月曜日が祝祭日の場合は翌日

問 スポーツ・文化振興課
TEL72-9998

南薩とりっぷインスタグラムフォトコンテスト

南薩の新たな魅力を再発見することを目的として、南薩で撮影された「南薩の人・食・景色・暮らし」に関する写真をインスタグラム上で募集します。入賞者には豪華賞品をプレゼントし、また令和４年２月５日(土)から27日(日)まで南溟館にて開催予定の「インスタグラム展」にて展示します。

●応募期間　11月30日(火)～１月14日(金)
※正午まで

●応募方法　インスタグラムにて、枕崎市文化資料センター南溟館公式アカウントをフォローの上、自身で撮影した写真に「撮影場所」と指定のハッシュタグ「＃南薩とりっぷ」「＃なんめいかんインスタグラム展」の２つのタグをつけて投稿してください。

※市ホームページや公式インスタグラムに掲載している注意事項をよく読んで投稿してください。

●審査基準

1.南薩の魅力が伝わり、行ってみたくなるような写真であるか。

2.インスタ映えする写真で、テーマ「南薩の人・食・景色・暮らし」に合っているか。

●注意事項

1.応募・展示に際し、著作権等の問題が発生した場合は、すべて応募者の責任とします。

2.入賞者への連絡は1月14日(金)以降、インスタグラム上のダイレクトメッセージで行い、指定期日までに返信がない場合は入賞を取り消します。また、入賞した投稿画像の元データの提供をお願いします。